

④ 昆虫類

ア 確認概要

調査の結果、調査範囲から 16 目 197 科 1,002 種の昆虫類が確認された。このうち対象事業実施区域内からは 818 種が、対象事業実施区域外からは 526 種が確認された。目別の確認科数及び種数を表 6-12-15 に示す。なお確認種目録は資料編に示す。

表 6-12-15 昆虫類の目別科数及び種数

目名	科数	種数	対象事業実施区域	
			内	外
トンボ目	7	26	22	19
ゴキブリ目	2	2	1	2
カマキリ目	1	4	4	3
シロアリ目	1	1	0	1
ハサミムシ目	3	3	3	1
バッタ目	9	50	38	35
ナナフシ目	1	1	1	1
カメムシ目	35	118	91	68
ヘビトンボ目	1	1	1	0
アミメカゲロウ目	4	8	6	6
シリアゲムシ目	2	3	3	2
トビケラ目	1	1	0	1
チョウ目	33	293	258	109
ハエ目	19	59	49	36
コウチュウ目	53	307	240	162
ハチ目	25	125	101	80
16 目	197 科	1002 種	818 種	526 種

イ 環境別確認状況

調査範囲を昆虫類の生息環境の観点から分類すると樹林、草地（休耕地を含む）、湿地（水田放棄地を含む）、水域、耕作地（畑地・果樹園）に大別される。各環境における確認状況は表 6-12-16 に示す通りである。

表 6-12-16 環境別の昆虫類確認状況

環境区分	確認状況
広葉樹林	広葉樹林は連担した樹林として広く成立しており、林縁部を含め多くの種が生息している。
針葉樹林	針葉樹林は面積的にも小さく、南側尾根のアカマツ林でチツチゼミやウバタマムシなどが確認されたが確認種数は少ない。
草地（休耕地を含む）	ススキ群落や休耕地のほか、耕作地周辺にも小規模草地在し、オオヨコバイ、ヨモギハムシ、シロオビノメイガなどを確認。また、セイタカアワダチソウなど花を付ける植物も豊富に存在しているため、訪花性のハチ類やハナアブ類なども多数確認。
湿地（水田放棄地を含む）	調査範囲内には、水田や放棄水田など湿地性の環境が広く存在し、サラサヤンマ、ヒメアカネ、コバネイナゴなどを確認。
水域	調査範囲内には蟹沢川と間門川が流れており、アサヒナカワトンボ、オジロサナエなどの流水性トンボ類が見られたほか、植生帯や堰による滞留部では、ミズカマキリやガムシなどの止水性種も確認。
耕作地（畑地・果樹園）	対象事業実施区域内には畑地や果樹園が存在し、畑地で発生していると考えられるモンシロチョウ、タマナヤガ、カブラヤガ、タバコガなどが確認されたほか、農業残渣を集積してある場所ではカブトムシの幼虫やヒゲナガハナムグリなどのコウチュウ類、コウカアブなどのハエ類を確認。また、落下した果実ではキタテハやケシキスイ類などを確認。

ウ 目別確認状況

主な目別の確認状況を示す。

ア) トンボ目 (7科 26種)

確認された 26 種のうち、湿地を含む止水域を主な生息環境とする種は、サラサヤンマ、ハラビロトンボ、ヒメアカネなど 18 種、流水域を主な生息環境とする種はミルンヤンマ、オジロサナエなど 8 種であった。止水性種は対象事業実施区域の南側湿地、調査範囲の西側にある調整池などが主な生息水域となっている。また、流水性種は蟹沢川と間門川が生息水域になっている。

対象事業実施区域内からは 22 種が確認された。このうちウスバキトンボを除く 21 種の全てが、対象事業実施区域内の湿地や蟹沢川で繁殖していると考えられる。

イ) バッタ目 (9科 50種)

バッタ類は主に草地、樹林、湿地で確認された。草地環境からはウスイロササキリ、ナキイナゴ、セグロバッタなど多くの種が見られたほか、耕作地周辺の小規模草地からもオンブバッタ、ヒナバッタなどが確認された。樹林環境では樹上性のカネタタキ、アオマツムシのほか、林床や林縁部からはマダラカマドウマ、アングロツユムシなどが確認された。また、湿地環境からはヒメギス、ヤチスズ、キンヒバリ、コバネイナゴなどが確認された。

対象事業実施区域内からは 37 種が確認された。対象事業実施区域内では東端に広がるススキ草地と、南側の湿地と樹林地がバッタ目の主な生息環境となっている。中央に広がる耕作地からはヒシバッタ、イボバッタなどが確認されたが種数は少ない状況にあった。

ウ) カメムシ目 (35科 118種)

カメムシ類は調査範囲の全域から確認された。草地からヨコバイ類、クモヘリカメムシ、ウズラカメムシなどが、樹林からはセミ類、コミミズク、アカスジキンカメムシなどが確認された。また、湿地や水路からはアメンボ類、ミズカマキリ、マツモムシなどが見られたが、水生カメムシ類はアメンボ類を除き少ない状況にあった。

対象事業実施区域内からは 91 種が確認された。耕作地周辺の低茎草本にもヨコバイ類やヒゲナガカメムシなどが見られ、カメムシ目は対象事業実施区域のほぼ全域から確認された。

エ) チョウ目 (33科 293種)

チョウ目はコウチュウ目に次いで多い 293 種が確認され、このうちガ類が 238 種、チョウ類が 55 種であった。チョウ類の確認状況は、樹林ではミヤマセセリ、アカシジミ、オオムラサキなど広葉樹林に生息する種が多く確認された。草地からはツバメシジミ、キタキチョウなどが、湿地ではホソバセセリが確認された。また、耕作地周辺ではモンシロチョウが多く見られ、畑作物で繁殖していると考えられる。ガ類の多くはライトトラップ調査で確認された。幼虫の食草等から生息環境を推測するとアゲハモドキ、キシタバなど広葉樹林に生息する種と、コブノイメイガ、シロオビノメイガ、ツメクサガなど草地環境に生息する種が多く確認されている。

対象事業実施区域内からは 258 種が確認された。樹林、草地、湿地など各環境に生息する種が確認されたほか、畑作物害虫であるモンシロチョウ、タマナヤガ、カブラヤガ、タバコガや、植栽されたクワの木で繁殖するクワコなど、栽培種が発生源と考えられる種が比較的多く確認されている。